

会 議 録

1 会議名

平成29年度第1回保倉区地域協議会

2 議題

【協議事項】

①「保倉地区町内会長連絡協議会と保倉区地域協議会との意見交換会」の開催結果について（公開）

②平成29年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年4月26日（水）午後6時00分から午後7時13分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 宮川和市（会長）、吉川善一（副会長）、池田つえ子、大堀幸子、
中島厚、早津輝雄、松林剛、丸山隆夫、山岸功、吉田一枝、渡邊良禎
（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【宮川会長】

- ・挨拶

・会議録の確認：大堀委員、中島委員に依頼

議題【協議事項】について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

3月8日（水）に「保倉地区町内会長連絡協議会と保倉区地域協議会との意見交換会」を実施し、出席いただいた町内会長から、保倉区の課題について意見をいただいた。意見交換会では、今後も町内会長連絡協議会やP T Aなどの各種団体と意見交換をし、地域課題について検討することとなった。

本日は、3月8日（水）の意見交換会について、当日の感想を含め、今後、意見交換会で出た課題について、どのように対応していくか、また、本年度の地域住民との意見交換会をどのように進めていくかを協議いただきたい。

・資料No.1 『保倉地区町内会長連絡協議会と保倉区地域協議会との意見交換会』の開催結果について（要旨）

資料No.4 「平成29年度 保倉区地域協議会スケジュール（案）」に基づき説明

【宮川会長】

3月8日（水）に開催した町内会長連絡協議会との意見交換会では、非常に活発な意見をいただきながら、今後の対策のためにどうしたらよいか、という話が多数出ていた。定住化対策の問題も、先回、早津委員から今までの流れや状況について話をしていたが、だんだん先細りになっているということ。話がまとまってくるとインフラ整備の問題が生じてしまい、なかなか進まない、ということが多々あるようだ。土地の単価は安いですが、自分でインフラを整備しようとする、高額の負担になるため、もっと便利なところで家を建てよう、ということがありうる。当案件については、我々も勉強しなくてはいけないと思うが、田舎に来ると、この辺が障害になってしまう。市街化調整区域が一部規制緩和される時に、新たなインフラ整備を伴わない、という条件付きの緩和だった。市街化調整区域を外したというわけではないので、アパートや集合住宅のようなものは造られないという状況は変わっていない。

今後の対応については、当日、町内会長からも意見が出たように、もう少し、幅を拡げて、いろいろな職種、いろいろな立場の人を集め、「保倉区はどうあるべきか」というようなことを、我々のレベルとは違ったところからの意見をいただくようなことが大事であると思っている。若い人たちの意見、お年寄りの方たちの意見等を総合的に考えながら、逐一、相談していかなくてはいけないと思っている。

その他、意見交換会について、何かあるか。

【早津委員】

各団体との意見交換は引き続き必要だし、若い方からも意見を聴くことは大事なことだと思っている。

4年前くらい前に、この問題について会長を筆頭に、強く行政へ要望したことがあった。そして、一部規制が緩和された。私も法律の運用の中で、集合住宅を建てられないことは理解しているが、何棟も数多く建てられなくて良いので、数軒でも集合住宅が建てられるようにしてもらいたい。集合住宅があれば、長男や長女はそこを借り、結婚して子どもができれば、実家に入ったり、畑の土地に家を建てたりして住むことができるのに、現状では、それは許可されない。だから、街場にアパートを借りて住んでいる人が多い。

そして、前から言っているように、保倉区だけが、何故厳しい規制があるのかが理解できない。市道の整備事業についてである。近所で話し合いをし、ここに道路があったほうが便利だ、という場所があるが、造るのは自由だが認定しない、舗装もしないし、除雪もしない。市道の整備事業は上越市から全て外す、と言われれば分かるが、街場では対応されている。これは不公平行政ではないか。保倉区から市議会議員がいなくなったので、振興協議会を中心にして動いてもらわないと前進しない。

今年の市長選挙に合わせて、高田では、地域の要望を一步前に進めようと動いている。やはり、4年に1度の市長選挙の時期にきちんと要望を出すことが大事である。今の時代は、ギブアンドテイクで、応援するからには、この程度の要望を受け入れて欲しい。

【宮川会長】

早津委員が言われたように、保倉区で生まれた子どもは、上越市内でアパートを借りて住んでいる。保倉区にアパートのような建物ができれば、そこに住んで、祖父母に子どもを見てもらい、勤めに行くこともできる。そういう点からも、集合住宅やアパートみたいなものを造れるようにすることが今後の課題であろうと思っている。

インフラ整備の他に、意見交換会でも、田舎に来ると近所付き合いをしなければいけないとか、町内会の行事等が煩わしいということが障害になっていると聞かれた。街場に出れば隣の人は何をしようが、どこへ勤めていようが関係ない。田舎だと、勤め先等もすぐ分かってしまうし、避難訓練等にも出てこないのがすぐ分かってしまう。

しかし、田舎ならではの良いところはたくさんあると思う。その中で皆さんから御意

見を聴きながら、進めていきたい。

【吉川副会長】

田舎は、いろいろな慣習があって大変、街場はそんなことない、ということだが、私のことを言って申し訳ないが、妻の実家が高田の本町にある。葬式に出た際、自分の町内より慣習が強いと感じた。必ずしも、街場には慣習がなく、保倉区は慣習が強い、ということにはならないと思う。ただ、便利か不便かということになれば、確かに保倉区のほうが不便だと思う。

【宮川会長】

それに近い部分のことを聞くことがあって、どうしてもそこが引っ掛かるということ。隣近所とお茶飲みをしたくない人もいるだろうし、何回でもいいからしたいという人もいると思う。その点は、人それぞれだと思っている。

【吉川副会長】

確かにアパートに入っていれば付き合いはない。

【宮川会長】

アパートに入ってしまうと、逆に町内会費を集められない、という町内もある。だが、アパートを造る際には、管理人が責任を持って町内会費を集める、という条件をほとんどのところでは付けているとのこと。だが、短期間で引っ越すという方もいるし、集金していいのかも分からないという方もいるので、口説いている町内会長を何人も知っている。そういう弊害を承知の上で、保倉地区にアパートを建て、少しでも人口を増やしたい。保倉小学校がなくなると大変だということは、皆さん、同じ考えだと思う。最低でも現状維持をしていきたいと思っている。

【大堀委員】

先ほど早津委員が、インフラ整備について要望していくべきではないか、ということを書いてきたが、水道が引かれていない場所の単価を安くしても、諸々の整備費用が掛かってしまうし、なかなか自前で整備するとなると厳しい。その辺は、市でインフラ整備をしていただければ変わるのではないかとと思っている。

【宮川会長】

それが一番ネックになっていると思っている。水道管が設置されている近辺に建てれば、そこから1メートルは「行政の持ち物」ということで造ってもらえる。あとは、自分の負担で引っ張ってくるが、そこは覚悟して建てているのだと思う。

水道に関しては、土地は安いけど、1メートルで何万と費用掛かってくるので、自己負担では、厳しくなってくる。

【中島委員】

私の会社の友達も東頸城や三和区のほうから毎日国道253号を通過して通勤しているが、みんな富岡や下門前に家を建てた。その中間にある青野辺りに家を建てられないかと思うが、やはり、都市ガスや上下水道が整備され、学校も近く、新しい学校もできる、というところに集中してしまう。青野辺りなら米山も見える、妙高山も見えると言っても、若い人たちには響かない。どうやったら保倉の魅力を伝えることができるのか。そういう思いがある。みんな素通りしてしまう。保倉区よりも利便性の高い大湊区の人でも市街地へ行ってしまう。その流れを止めるのは難しい。どこかで対策を取らなくては住民がいなくなってしまう。何かアピールをしたいと思うが、何をアピールするかがわからず、いつもそこで終わってしまう。

【丸山委員】

公道に面したところは、市街化調整区域から外してもらったので良いことだと思っているが、早津委員が言っているように集合住宅は建てられない、市の道路も整備できないとなると限られてしまう。

私の町内も1軒転入者があった。若い人たちだが、町内の行事等にも、率先して出てくれている。馴染んではいると思うが、本人に聞いてみると、微妙だとのこと。お子さんも2人いるが、小学校に馴染めなかった。奥さんにも話を聞いたが、「ここは難しい」ということだった。

確かに定住化は難しい問題である。結局、どこへ行っても過疎化状態になっており、中心市街地だけ栄えてきている。

保倉区に定住してくれる方々を誘致するというのは、至難の業だと思っている。先ほどから考えているが、保倉区全体で動けば、どうにかなるのではないかとと思っている。

【宮川会長】

今までのやり方で、6、7軒増えた。それを踏まえて、今までのことを土台にしながら、何が不足か、何をPRすればいいのか、ということをもみんなで知恵を出し合うしかない。

子どもが馴染めなかったということだが、それが、田舎の悪いところである。保倉区の生まれじゃない、という感覚を子ども達が持っているということは、本当に恐ろしい

ことである。だが、先生に言っても、本当にしょうがないことだと思っている。根本的に改善しなくてはいけない。

【渡邊委員】

子ども同士のトラブルについて、学校側がどうすることもできない、というのは逃げの行動である。そんなことは絶対はない。それは先生方の怠慢だと思う。私は、37年間、教員をしていたが、その間、旧直江津工業高校の生活指導部長を11年間務めた。管理職になってからは、朝礼等で挨拶が終わると、子どもの顔を見る。そうすると、様子がおかしいことはすぐ分かった。

ある生徒が白いシャツに落書きをされていた。本人は知らない、と言っているが、私がおかしいと感じたので、校長室へ呼んだが、トラブルになっていることをなかなか言わない。学級担任や生活指導部長を呼んで、「よく話を聞いてください、そして解決の糸口をつかんで」と言って確認してもらったら、6か月間、学校に来るのもいやで、泣きながら学校に通っていたとのことだった。

そして、定住化については、上越市の姿勢に問題があると思っている。保倉区に家を建ててほしくない、というのが根底にあるのではないか。保倉区に家が増えては困る、人口が増えては困る。その理由は何かという、上越市の中心市街地計画でコンパクトシティを造る、という計画がある。先般、「20万都市にならないと中核都市にならない、だが、20万人を割って、20万人になる見込みがないので、中核都市造りというのは、停止しなくてははいけない」というものがメディアに載った。この中核都市のためにブレーキを掛けられて、保倉に家や集合住宅を建ててはいけない、インフラ整備もしてはいけない、真ん中に人口を増やしたいという市政だった。保倉区で定住化対策をやっている、増えるわけがない。市の政策が、中核都市を断念することによって、どのように変わっていくか、その変化を見ていきたい。それによって保倉区に対する姿勢がどのように変わるか。このままでは、人口の増加は望めない。人口を増やしていくには、行政からのバックアップが必要である。保倉区の住民として、現在の人口、戸数をどう守っていくか、というところに視点をおかなくてはいけないと思っている。

【宮川会長】

渡邊委員は、市の計画を綿密に勉強されている。今の意見は、市の見通しに基づく意見だと思う。我々が、一所懸命に人口を増やそうとしていても、前進しないのが現状だと思う。保倉区で生まれ育ったが、今、保倉区に住んでいないという人たちを引き戻す

ということが一番良い手法だと思うが、どのように戻すか、という勉強も必要で、角度を変えて勉強したほうがいい。

【早津委員】

渡邊委員は、今まで何度も同じことを主張しているが、人口を減らさないように努力する、1軒でもいいから増やせないか、というのは、そのとおりである。減らさないようにするには、やはり、集合住宅を認めてもらう。保倉区は、そのための用地はいつでも準備できる。そうすると、長男や長女はそこに住める。そして、何かあった時にすぐ駆け付けられる。だから、長男や長女から近くに住んでいてもらうためにも、集合住宅が必要である。それが具体的な定住化対策になる。

私も市政を見てきているが、財政難になっているためか街場の方に団地を造り、人口を増やそうとしている。そうすると、保倉区には農作業をするためだけに来ればいいから、保倉区に住む必要はない、ということになってしまう。そこを何とかしていただきたい。農村を何とかしなければ街場も人口は増えない。観光で市税が入ってこないなら農業で稼ぎ、市政を豊かにする。バランスの取れた市政に変えていただかなければならないと思っている。

【宮川会長】

「定住化対策」について、前に進んだ意見も多数出た。今までのものを踏襲するというのではなく、方向を変えて取り組んだほうがいいような気がした。もう一步踏み込んだ形の要望もしていかななくてはいけない。

車社会なので、車を運転できる若い人たちはどこへでも行ける。だが、年を取り、運転できなくなった、という方たちもいる。そういう人たちへの対策もきちんとやっていかないといけない。一度で解決するわけではないので、その辺も踏まえ、今後どのような方向が良いのか、いろいろな団体や若い世代も含めて意見交換をしながら進めていきたいと思っている。

【山岸委員】

定住化対策については、各町内会長同士でも話をしている。いずれ、振興協議会でも審議していき、組織化していただきたい、という話も出ている。役員会でもテーマを出し、組織として進めていけないかを検討している。皆さんの考えに沿うかどうかは分からないが、皆さんからも知恵を貸していただきたい。

また、保倉区の人口が増えない、というのは、各町内に「良いところ」と「悪いところ

ろ」があるのだと思う。意見交換会で町内の悪いところを聞いても、誰も答えないかもしれないので、実態についてアンケートを取り、集計し、保倉区の「良いところ」と「悪いところ」を再認識してはどうか。どの町内にも長所と短所がある。短所については、みんなで意見を出し合い、例を挙げながら打開していかないといけない。最初から定住化対策という大きなテーマを掲げても駄目だと思う。まずは、保倉区の長所をPRし、行政にも宣伝しながら、少しでも多くの人に見学に来てもらえるような取組をしていけば、少しずつ良くなっていくのではないかと考えている。

【宮川会長】

振興協議会の会長を中心にしながら、保倉区がどうあるべきか、という意見を聴いていただき、進めていただければと思う。我々地域協議会も、今までのものを踏まえながら、お互いに協力し合い、市へ意見するものはしなくてはいけないし、町内の皆さんに報告するものはしなくてはいけないので、そういう形で進めていきたいと思っている。

では次に【協議事項】平成29年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【星野主事】

- ・資料No.2「平成29年度地域活動支援事業 保倉区の採択方針等について」
資料「平成29年度地域活動支援事業 募集要項」に基づき説明
- ・現在の提案状況を報告
- ・資料No.3「【保倉区】平成29年度 地域活動支援事業採択決定までのスケジュール」
に基づき説明

【宮川会長】

- ・次回協議会：5月23日（火）午後6時から
次に「その他」について、引き続き事務局へ説明を求める。

【星野主事】

- ・資料No.4「平成29年度 保倉区地域協議会 スケジュール（案）」に基づき説明

【宮川会長】

地域活動支援事業の提案状況についてだが、まだ、若干の余裕があるとのこと。私も、学校関係で相談を受けているが、他に何かあるか。

【大堀委員】

私のほうで、公民館の調理室を使用した提案を考えており、地域の女性と話し合っ

いる。

【宮川会長】

では、平成29年度の提案で間に合うように進めていただきたい。

【山岸委員】

振興協議会でも、今年の体育大会の反省会を公民館で実施しようと考えている。そして11月にファミリー綱引き大会及び大縄跳び大会があるが、大会終了後、公民館に集まり、食生活改善推進委員の方からもお手伝いいただき、反省会をしようと考えている。

【大堀委員】

その話も少し聞いている。

保倉区の拠り所として、地域の皆さんから応援してもらった活動にしていきたいと思っている。

【宮川会長】

では、関係各所と相談しながら進めていただきたいと思う。

【吉川副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。